学思

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」――『論語・為政篇』

Newsletter No.74　　2023 年 4 月～ 6 月

JSPS Beijing

目 次

- センター長のコラム……2
- 活動報告……3~4
  - ・「中日科技人文交流ウィンウィンの旅」等に参加
  - ・2023 NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム
- 二国間交流事業募集案内……5
- 活動記録（2023 年 4 月 ～ 6 月）……5
- 編集後記……6

編集・発行
日本学術振興会北京研究連絡センター

JSPS 外国人特別研究員事業

前回のコラムでは、1979 年に JSPS が中国との交流事業を開始してから 40 年以上経ち、JSPS 事業経験者の間でも世代交代が起きていることということを書きました。日本に中国人研究者を招き入れるためのプログラムについても、1980 年代や 90 年代に盛んであった二国間研究者交流事業に代わってポストドクトラル・フェローシップがその中心となっていきます。JSPS 同窓会の担い手として中心的な役割を果たすようになるのもこれらのポスドクフェローたちでした。そこで今回はこの外国人特別研究員事業（ポストドクトラル・フェローシップ事業）の足跡をたどってみることにしたいと思います。

外国人特別研究員事業は、1979 年に開始された「英・西独若手研究者招へい事業」をその起源としています。「昭和 54 年度日本学術振興会事業の概要」によると、この招へい事業は、これまで「英、米、仏等の先進諸国の好意によって、貴重な経験を積むことができた経緯にかんがみ、我が国の負担によって学術の国際交流に資するため」に実施することになったものであり、当初から国際貢献としての性格を持っていたと言えます。1983 年にはフランスを対象国に加え、「主要先進国若手研究者招へい事業」と名称を変更しております。そして、1988 年には米国を対象国に加えたうえで内容も拡充し、新たに「外国人特別研究員事業」としてスタートすることになりました。それまでは、海外の対応機関からの推薦によりフェローを採用しておりましたが、それとは別に日本国内での公募も開始されるようになっています。

対象国は、機関推薦枠も国内公募枠も年を追うごとに増えていきますが、ほとんどが先進国に限られておりました。その対象国の制限がなくなったのが 1994 年になります。この国籍制限がなくなったことがその後中国人研究者が台頭する契機となるわけですが、実はこの 3 年前の 1991 年には既に機関推薦により中国から 12 名を受入れており、その数は 1993 年には継続も含めて 60 名にまで達しています。これは外国人特別研究員総数の 17%にあたっていました。

1996 年に「ポスドク 1 万人計画」が閣議決定されるなど、政策的な後押しもあり、外国人特別研究員の採用人数は急速に伸びていきます。中国人研究者の採用数もさらに伸びていき、全採用数の 30%以上を中国籍が占める年もでてきました。外国人特別研究員事業 30 周年を機に実施した集計では、1988 年から 2007 年までの累積採用数は 130 か国からの 10,779 人に達しておりますが、そのうちの半分以上の 5,599 人をアジア地域の国籍者が占めております。そして、国籍別の累積採用数を見ると、中国籍は 2,575 名で 2 位のインドの 897 名をはるかに上回り群を抜いての 1 位となっております。

その後、政府の政策の重点が、研究者の受入れから日本人若手研究者の海外への派遣に移ったこともあり、2003 年をピークに事業予算が削減されいくことになります。採用率も 10%前後という厳しい状況が続くようになり、さらにパンデミックに追い打ちをかけられることになりました。それでも中国人研究者がこの事業に意欲的に応募してくる状況に変化はありません。

今日、外国人特別研究員事業は、待遇や採用率など様々な点で制度の問題が指摘されるようになってきておりますが、30 年以上にわたり実施してきたことで、中国の若手研究者のキャリアパスの選択肢として認識されるようになってきているのではないかと思います。元フェローが、次の世代を育てるためにこのフェローシップを活用して日本へ人材を送り込む、そんな循環が実際に始まっていることを思うと、その時その時の社会情勢に左右されることなく着実にこの事業を続けていくことの意義を感じずにはいられません。

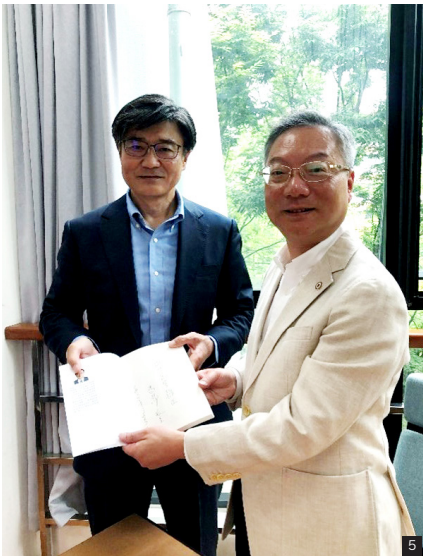
センター長　山口英幸

「中日科技人文交流ウィンウィンの旅」等に参加

JSPS 北京研究連絡センター山口センター長は、中国科学技術交流センター（CSTEC）が企画した「中日科技人文交流ウィンウィンの旅」に招待され、4 月 14 日から 21 日にかけて深圳、寧波、杭州、金華と移動しつつ、シンポジウムに参加したり、大学やベンチャー企業などを訪問したりしました。

5 月 19 日、山口センター長は華東師範大学歴史学系の楊彪教授を訪問しました。楊彪教授は、2022 年から JSPS 中国同窓会の 5 代目の会長に就任しています。

5 月 20 日、山口センター長は、日中民間交流団体である「一期一会」が開催した日中友好交流会に参加し、中国の大学関係者等と懇談してきました。「一期一会」は、2014 年の設立以来、中国東部を中心に日中友好の促進を目的とした様々な活動を企画・運営してきており、2022 年に外務大臣表彰を受賞しています。



1.「協創ウィンウィン」中日科学技術人的交流シンポジウムに参加（4 月 15 日、深圳）
2. 寧波大学を訪問（4 月 17 日）
3. 浙江大学を訪問（4 月 19 日）
4. 中日韓科学技術イノベーション協力シンポジウムに参加（4 月 20 日、金華）
5~7. 華東師範大学訪問
8~10. 日中友好交流会に参加

2023 NSFC-CAS-JSPS共同シンポジウム「Translational Medicine and Innovative Drug Research」

2023 年 6 月 17 日（土）～ 18 日（日）、天津市において NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム「Translational Medicine and Innovative Drug Research」を開催しました。本シンポジウムは、JSPS のカウンターパートである中国国家自然科学基金委員会（NSFC）、中国科学院（CAS）と共同で 2013 年から開催しているもので、2020 ～ 2022 年度は新型コロナウイル感染症の感染拡大を鑑み開催を控えていたため、今回、4 年振りの開催となりました。今年は、JSPS 中国同窓会会員であり、天津医科大学教授でもある孔徳新先生がシンポジウム全体のコーディネーターを務めました。「Translational Medicine and Innovative Drug Research」をテーマとし、日本、中国を含む世界各国から参加された 20 名の方々より講演いただき、各研究機関に所属する研究者、博士研究員、大学院生等、延べ 160 名以上に出席いただきました。

集合写真

シンポジウムに先立ち、コーディネーターを務めた孔徳新教授の他、実施機関、主催機関の代表が挨拶を行いました。JSPS 北京研究連絡センターからは山口英幸センター長が登壇し、開会の挨拶及び JSPS の実施している事業について説明を行いました。

天津医科大学孔徳新教授

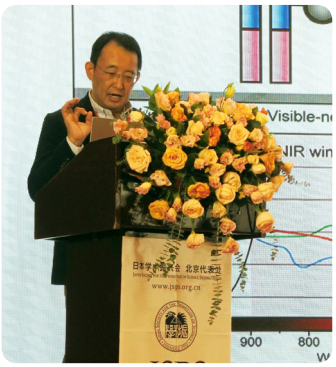
JSPS 北京研究連絡センター
山口英幸センター長

2 日間の日程で実施された各セッションでは、JSPS の招待により日本から参加された京都大学・掛谷秀昭教授、東北医科薬科大学・顧建国教授、公益財団法人がん研究会・旦慎吾部長、東京工業大学・中村浩之教授を含め、20 名以上の研究者の方々が登壇し、講演を行いました。

京都大学掛谷秀昭教授

東北医科薬科大学顧建国教授

公益財団法人がん研究会旦慎吾部長


東京工業大学中村浩之教授

各セッションに設けられた質疑応答の時間には、会場の参加者から様々な質問や意見が寄せられました。また、ティーブレイクやシンポジウム後のレセプションにおいても盛んに意見交換が続き、研究者同士が積極的に交流し、親睦を深める貴重な機会となりました。

JSPS 北京研究連絡センターは、今後も日中研究者間の活発な研究交流の場として、本シンポジウムを継続的に実施し、発展させていきたいと考えております。

2024 年度 JSPS 二国間交流事業（共同研究・セミナー）募集案内

開催日	中国科学院（CAS）		中国社会科学院（CASS）	国家自然科学基金委員会（NSFC）	
対象分野	物理学		人文学、社会科学	自然科学	
実施形態	共同研究	セミナー	共同研究	共同研究	セミナー
採用予定件数	3	2	1	15	4
支援期間	3 年間	1 週間以内	1 年～ 2 年 9 ヶ月	2 年 9 ヶ月	1 週間以内
連絡先	中国科学院 国際合作局亜非処 Tel: 010-6859-7480 Email: htchen@cashq.ac.cn		中国社会科学院 国際合作局亜非処 Tel: 010-8519-5139 Email: wuxi@cass.org.cn	国家自然科学基金委員会 国際合作局 Tel: 010-6232-8404 010-6232-7368 E-mail: zhangle@nsfc.gov.cn zhangyw@nsfc.gov.cn	
採用状況（2022 年度）	共同研究： 申請数 9 件、採用数 3 件 セミナー： 申請数 0 件、採用数 0 件		共同研究： 申請数 1 件、採用数 0 件	共同研究： 申請数 126 件、採用数 15 件 セミナー： 申請数 17 件、採用数 4 件	

※中国の研究者は対応機関に申請書を提出する必要があり、上記の三つの対応機関の担当部局に必ず連絡してください。
日本語：https://www.jsps.go.jp/j-bilat/semina/shinsei_bosyu.html
英語：https://www.jsps.go.jp/english/e-bilat/call.html

センターの活動記録

（2023 年 4 月～ 6 月）

4月

1 日　小原和樹国際協力員が着任
8 日　中国国際教育展参加
13 日　科学技術振興機構北京事務所訪問
15 日～ 21 日　日中科学技術人的交流シンポジウム等出席
24 日　広報文化十一者会出席
27 日　アジア・太平洋研究会参加（オンライン）

5月

9 日　上海科技交流センター来訪
16 日　在中国英国大使館訪問
19 日　華東師範大学訪問
20 日　日中大学関係者春の集い出席
24 日　広報文化十一者会出席
25 日　中国科学院管理創新与評価研究中心来訪
30 日　アジア・太平洋研究会参加（オンライン）、個人情報保護セミナー参加

6月

6 日　国際協力員向け北京センターを紹介
15 日　北京日本人倶楽部講演会出席
17 日～ 18 日　NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム開催
20 日　広報文化十一者会出席
27 日　日韓科学技術協力局長級会合出席
29 日　名古屋工業大学訪問
30 日　アジア・太平洋研究会参加（オンライン）

編集後記

今年度は３年ぶりに国際協力員が着任となりましたが、６月６日には、来年度の国際協力員へ北京センターの活動について説明する機会がありました。欧米諸国のセンターとは一味違った、ダイナミックでユニークな北京センターの魅力を紹介できたのではないかと思います。

日常生活では、アフターコロナで人の往来が復活しつつあることを実感する今日この頃です。日本ではパスポートセンターの大混雑がニュースになりましたし、東京の街中では外国人観光客の姿を見かけない日はなくなりました。また、赴任の手続きで日本の中国ビザ申請センターに足を運ぶ機会がありましたが、人でごった返しており大変驚きました。今後、日中の研究者や留学生の行き来が回復し、また、コロナ前より盛んになることを願っています。弊センターとしてもその活動を支援していければと思っておりますので、関係各位におかれてましては引き続きよろしくお願いいたします。

副センター長　金子めぐみ

日本学術振興会 北京研究連絡センター
JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三環北路 89 号　中国外文大厦 A 座 404 室
郵便番号 :100089
Tel: + 86-10-8882-4331　Fax: +86-10-8882-4332
E-mail: beijing@jsps.org.cn　URL: www.jsps.org.cn

WeChat